



五味平一議員

区への資材支給 限度額、10万円 を20万円に

財政と協議し、検 討していく

質問・・・「資材支給」の制度はいつから始まり、その目的は何か。

町長・・・30年以上前から行っている。目的は、行政と地区がお互いに協働の精神を持って、より良い町づくりをすること。この制度は、町の事業及び区が一定の公共事業を行う際、活用されている。

質問・・・平成22年度から24年度で、各区から10万円以下の道路、水路の維持補修工事の要望書は、何件提出されているか。

町長・・・資材支給について

ては、農業用と土木用がある。22年度は農業用と土木用合計で21件、23年度は合計で24件、24年度は合計で25件、要望のあった区に対しては全て対応した。

質問・・・資材支給の年間の総予算額と、1回の申請について概ね10万円以下という金額は妥当であるか。

町長・・・長いこと地域と行政間でコンセンサスが得られているので、妥当と考えている。

質問・・・資材支給後の工事確認は、どのように行っているか。

町長・・・実施者である地区が行っている。

質問・・・物価も上がり、これからは消費税も上がる。10万円では工事の遅れも出るので、限度額を20万円にしたらどうか。

町長は安全・安心の町づくりを公約にしているではないか。

建設課長・・・資材支給

制度は、町の通常の事業と並行して行う形で実施している。

区から要望が出た場合、緊急性が低く町の工事の順番が数年先になりそうだという箇所について、町から資材を支給して区で施工していただくようお願いしている。

支給限度額については、財政サイドと協議をしながら検討していきたい。

質問・・・ぜひ、前向きに検討していただきたい。

建設課長・・・来年度の予算査定がこれからの年で、予算要求していききたい。

□その他の質問

*観光庁のビックデータを活用した観光開発の取り組みについて

*人事運用について



小池勇議員

富士見ワインに 取り組むのか

町づくりのため に進めたい

質問・・・町長選で富士見ワインへの思いを語っているが、本気で取り組む気があるか。

町長・・・地域間アンバランスは正のため、ぜひやりたい。

質問・・・具体的にどう取り組むか。

町長・・・東御市でワイナリーを経営している「玉村豊男」氏の誘致を交渉中。すでに、土質、その他の適正調査を開始している。順調にいけば、来春までにブドウ品種の選定、植え付けが可能。

質問・・・対象地域はどこか。

町長・・・町で最も暖かい下葛木地区を考えている。

質問・・・地元の理解は。

町長・・・区長さんはじめ、区民の皆さんの期待は大きい。調査に積極的に協力いただいている。

質問・・・玉村氏の誘致で、どのような効果が期待されるか。

町長・・・玉村氏は東御市でワイナリーだけでなく、レストランも経営し、年間4万人が訪れている。ブドウ栽培だけでは面白みに欠けるが、ワインに加工し付加価値をつけ、更にレストランで提供するなど、経営能力も高い。一方、作家としての知名度も高く、発信力にも期待できる。

質問・・・ワイン用ブドウ栽培は難しいか。

町長・・・気候、風土に合った品種を選択することが大事。玉村氏の技術者としてのスキルは高い。

質問・・・玉村氏は得難い人材だ。誘致成功のため、

どの様な支援が可能か。

町長・・・県では「信州ワインバレー構想」を設定し、力を入れているが、諏訪は空白地帯で、期待は大きい。生産から販売に至る様々な支援策がある。国の「6次産業化支援事業」も取り込みたい。

農地確保や地元との調整も大事な仕事だ。

質問・・・3セク方式であるのか。

町長・・・3セクはない。純民間経営でやってもらう。

質問・・・長期的な展望は。

町長・・・大型ワイナリーを核に、小規模だが特色あるワイナリーが取り巻く欧州型を考える。その場合には、「ワイン特区」申請も必要。

質問・・・より発展的な考えはないか。

町長・・・楽々工房のチーズ、ジビエ加工、ブドウもぎ取り、ブルーベリーやカシスのリキュールなど、可能性は広がる。